

道徳学習指導案

2年1組

- 1 主題名 しては いけない こと A【善悪の判断、自律、自由と責任】
- 2 資料名 「わりこみ」生きる力
- 3 ねらい 割り込みはどんな場合でもいけないことを知り、誰もが気持ちよく生活できるように、よいと思うことを行おうとする態度を養う。
- 4 本時の学習指導過程

	学習活動と内容	◇指導上の留意点☆学習状況の把握
導 入	1 してはいけないことをしてしまう気持ちを考える。 ○わりこみをしてしまう気持ちについて考えよう。	◇本時のねらいとする価値について問題意識を持たせる。
展 開	2 教材「わりこみ」を読んで考え、話し合う。 ①「ぼく」は、どんな気持ちでいさむさんをにらんだのでしょうか。 ・後からきたのにずるい。 ・ぼくのほうが先。じゅんばんがおそくなる。 ②じぶんの後ろならかまわないかなと思った「ぼく」は、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・じぶんのじゅんばんはかわらない。 ・じぶんはそんをしない。 ③「ぼく」が「やっぱりわりこみはいけないよ。」とはっきり言ったのは、どんな気持ちからでしょうか。 ・じぶんさえよければいいというのでは、いけない。 ・みんなのためにもはっきりと言おう。 3 よいと思うことをすすんで行うことの大切さについてまとめる。 ・だめなことはしない。 ・だめなことをしている友達がいたら教えてあげる。 ・正しいことをすると、みんなが気持ち良く行動できる。	○いさむをにらみつける「ぼく」を全員で動作化させることによって、自分の順番が抜かされたことに腹を立てている気持ちに共感させる。 ○板書をもとに、順番を抜かされて憤っていた「ぼく」の気持ちと「後ろならいいか」と思った「ぼく」の気持ちを対比させることにより、自分の損得で考えていることに気付かせる。 ○「ずるいなあ。」と言われた時の場面の動作化をすることによって「よくないことはよくない」という思いを強め、遠慮なく行動することが大切であることを捉えさせる。 ○自分の経験をもとに、これからの生活のあり方について考えられるようにする。 ☆「ぼく」の考える「よいこと、よくないこと」について多面的・多角的に考えることができたか。〈発言・話し合い・動作化の様子〉 ☆善悪を判断し、良いことを進んでやろうとする思いが深まっているか。〈道徳ノート〉
終 末	4 教師の説話を聞く。 ○教師の経験談をもとに、児童の学校生活の中から善悪の判断に関わる、具体的な好ましい場面を紹介する。	○正しいことをすすんでしようとする実践意欲を高める。

- 5 評価：善悪を判断し、良いことを進んでやろうとする思いが深まっているか。

(道徳ノート)